をゆするものがあった.

「南山城の相楽郡といえば　ほとんど山だけの村である.　そこに峙っている鷲羽山は　標高はようやく3000尺に過ぎないが　巉岩絶壁をもって　削り立っているので　昔役の小角が　開創したと　いはれている近畿の霊場の1ツである.　その麓を繞って　殆んど外界と交通を　絶ったような　別天地が開けている」とある.

まことに伏見図幅の古生層からなる天地は　標高こそ低いが　山頂をみれば南アルプスの峻険と変らないことは　岐山曲阜と同じである.　後年北アルプスの「白馬図幅」を完成して　日本のハイムといわれ　今だに峻険に恐毛をふるって　これに亜ぐものがないという　石井の若き日のことだから　悠々と歴史にとんだ桃源境の中にひたむきに遊行したに違いない.　「伏見図幅」は地形について一言も語っていない.

（筆者は元所員　現大同ボーリングKK）

地学と切手

カール・ツァイス社110年および125年記念切手

P. Q.

1956年11月9日に　東ドイツでカール・ツァイス社110年記念の3枚1組の切手が発行された.　本来ならば　100年記念が普通であるが　戦後の混乱期であったためか　10年遅れて安定した時期に　110年記念切手を発行したわけである.　それだけにツァイス社に対するドイツの誇りというものを感じさせる切手である.　さらに1971年には前回と打って変わった大型で派手な色彩の125年記念切手を発行した.　これは西ドイツにある分離したツァイス社が日本製品の進出で苦境にあるのに対比したものかも知れない.

カール・ツァイス（Carl Zeiss）は　1816年ワイマールに生まれ　1888年に死んだ.　彼は医者になる教育を受けたが1846年にカール・ツァイス工場をイエナに建てて　最初はおもに顕微鏡の製作をした.　彼のなした最大の事業は　1866年にアッベを入社させたことであり　その後のツァイス社の業績はほとんどアッベに負っている.

アッベ（Ernst Abbe）は1840年アイゼナッハで生まれゲッチンゲン大学とイェナ大学に学んだ後に　イェナ大学の教授となった.　1866年にツァイス社の研究主任となり1875年にはツァイスとの共同経営者になり　ツァイス社を世界でも有名な光学会社にした.　1888年のツァイスの死後には単独経営者となり　ツァイス社の近代作業の基礎を築いた.　その間にカメラ　望遠鏡　プラネタリウムと境界を拡げる一方　1870年にはアッベのコンデンサー　1874年にはアッベの屈折計などを発明した.　屈折計はとくに岩石学者にはなじみ深い.

1893年にはステレオレインヂフアインダーなどが製品化されている.　彼は1905年に死んだ.

ツァイス社はおもに顕微鏡で基礎をきずいたが　その後ショットが中心となってレンズの製造をはじめた.　テッサー　アナスチグコートなどのレンズはこうして開発されたレンズである.　1926年にはツァイス・イコン社と改称した.　戦後ではドレスデンとイェナの工場は東ドイツの公社となった.

西ドイツでは　カール・ツァイス財団の下に　ツァイス・イコン（カメラ・事務機・かぎ）　コンパー（シャッター）　アンシュッツ（映写機）　ヘンゾル（双眼鏡）などの光学メーカー9社を持っている.　ツァイス・イコン社はシュツッガルト東方のオーバコッヘンに工場があって　高級一眼レフを生産していたが　日本カメラの進出で　1971年夏にカメラ工場を閉鎖し　その後旭光学と提携した.

110年切手は10ペニヒにアッベ　25ペニヒにツァイスの肖像が画かれている.　20ペニヒに画かれてるのはツァイスの象徴であるイェナの工場である.　125年記念切手は　10ペニヒ　20ペニヒ　25ペニヒで各種の光学機械が図案化されている.